

平和の議論聞いて

NY原水協や現地市民アピール



日本領事館前で禁止条約に参加するよう求める日本原水協や被爆者の人たち。11月30日、ニューヨーク（加来恵子撮影）

【ニューヨーク】加来恵子「核兵器禁止条約第2回締約国会議に参加している原水協禁止日本協議会の代表団は11月30日、ニューヨークにある日本領事館前で禁止条約に参加するよう求めるアピール行動を現地の平和団体マンハッタン・プロジェクトと行いました。ニューメキシコのウラン採掘被害者らも参加しました。」

「禁止条約に参加すること

は、放射能を含む「黒い雨」による被害者救済を求めた裁判で勝訴したが、まだ救済されていない人がいると訴えました。」

全労連の石川敏明副議長は、「日本政府は会議に参加して傍聴すべきだ。そう

すれば、世界が平和に向けて議論していることがわかる」と述べ、「日本は米国だけを見るのではなく、世界の国の声に耳を傾けるべきだ」と訴えました。」

参加者は日本領事館に向かっ「日本政府は締約国会議に参加せよ」「アメリカの核の傘はいらない」「軍拡よりのちと暮らして」「フーモアヒバクシャ」などとコールし、アピール

核兵器禁止条約に日本も参加を

被団協と原水協が 国連代表部へ要請

【ニューヨーク】加来恵子「禁止条約を重要な条約だと考えているのか」と質問すると、志野光季市（すえいち）事務局長が「その通り」と回答したため、「核なき世界に向けて禁止条約は出口だと繰り返すが、入り口のオ



志野大使（中央）に要請する日本被団協のメンバー。11月29日、ニューヨーク。志野大使（中央）に声明などを手渡す日本原水協の安井事務局長（右から3人目）と同代表団。11月29日、ニューヨーク



口への入り口は、いろいろある。ルートを探りました。算牧智之代表委員、金本弘代表理事、大村義則、世委員

が参加しました。一方、原水協禁止日本協議会の安井事務局長ら6人は、核兵器禁止条約第2回締約国会議への声明などを手渡し、会議には多くの国が参加し、78年前の広島と長崎を繰り返さないために禁止条約が重要だと述べ、被爆者の声に耳を傾けていると紹介しました。日本政府は今からでもオプ

止日本協議会の安井正和事務局長をはじめと

た。日本被団協の木戸事